【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 3111

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)文化財修理報告書を刊行する。
(東京国立博物館)
1)東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
4)研究誌「ＭＵＳＥＵＭ」(年6回)を刊行する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長　池田宏

【実績・成果】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)『東京国立博物館文化財修理報告』ＸⅢを刊行した。
(東京国立博物館)
1)(東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号 2411 参照)。特集陳列印刷物（リーフレット）を東京国立博物館ウエブサイトで公開した。
2)『東京国立博物館紀要』48号・『東京国立博物館図版目録　インド・インドネシア染織篇』を刊行した。
3)『法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸＸⅢ　聖徳太子絵伝(四幅本)１』を刊行した。
4)研究誌『MUSEUM』637～642 号を刊行した。
(中期計画記載事項)
特集陳列リーフレット 4 件の PDF ファイル版を作成し、刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を進めた。

【補足事項】
以下の出版物を編集・発行、または編集した。いずれも各担当者の調査研究に基づく成果である。
○『MUSEUM』発行(6 回)
○定期刊行物(4 件)
『東京国立博物館紀要』48 号、『東京国立博物館文化財修理報告』ＸⅢ、『法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸＸⅢ聖徳太子絵伝(四幅本)１』、『東京国立博物館図版目録　インド・インドネシア染織篇』を編集･発行した。
○特別展図録・特集陳列印刷物(10 件)
・特別展図録　5 件
『青山杉雨の眼と書』『出雲－聖地の至宝－』『中国　王朝の至宝』『飛騨の円空－千光寺とその周辺の足跡－』『書聖　王羲之』を編集した。
・特別展リーフレット(無償)　1 件
『中国山水画の 20 世紀－中国美術館名品選－』を編集・発行した。
・特集陳列リーフレット(無償)　4 件
「東洋の青磁」「動物埴輪の世界」「帝室博物館総長　森鴎外」「東京国立博物館コレクションの保存と修理」を編集・発行した。
○その他(4 件)
・『東京国立博物館の臨床保存』を改訂した。
・『東京国立博物館所蔵骨角器集成２　鹿角製刀剣装具篇』を編集・発行した。
・『東京国立博物館ハンドブック 和文』改訂 3 版を編集した。
・『根付　高円宮コレクション』3 版を編集した。
その他、『東京国立博物館蔵　東洋美術 100 選』について、東洋館リニューアル記念の帯を作成した。

特集陳列「帝室博物館総長森鴎外」リーフレット

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
『MUSEUM』発行	6 回	6 回	A	経年変化	6	6	6	6
定期刊行物	4 件	－	－		6	6	5	3
特別展図録・特集陳列印刷物	10 件	－	－		11	10	12	12
その他	4 件	－	－		2	2	2	2

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3112

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

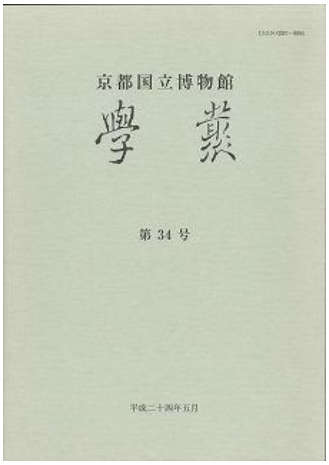
【年度計画】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)文化財修理報告書を刊行する。
(京都国立博物館)
1)研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　宮川禎一

【実績・成果】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)『文化財修理報告書　第9号』を刊行した。
(京都国立博物館)
1)研究紀要『学叢』第 34 号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開した。
2)『社寺調査報告書　26』を刊行した。
○特別展等の図録を5冊刊行した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
1)『学叢』第 34 号で、論文 6 本、作品研究 3 本、作品紹介 1 本を発表した。

○特別展等図録(5 冊)
・陽明文庫を中心とする各所蔵先での調査成果を盛り込み、特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」を開催し、図録を刊行した。
・島根県立古代出雲歴史博物館他と共同して行った島根県内を中心とした文化財の調査研究の成果を盛り込み、特別展覧会「大出雲展」を開催し、図録を刊行した。
・長年にわたる館蔵・寄託品の宸翰をはじめ各所蔵先での調査研究の成果を盛り込み、特別展覧会「宸翰　天皇の書」を開催し、図録を刊行した。
・館蔵の国宝十二天像をはじめ収蔵の後七日御修法に関連する資料の調査研究の成果を盛り込み、特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」を開催し、図録を刊行した。
・狩野山楽・山雪の作品について、海外も含め各収蔵先での調査成果を盛り込み、特別展覧会「狩野山楽・山雪」を開催し、図録を刊行した。



『学叢』第 34 号

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
定期刊行物	3 件	―	―		―	―	―	3
特別展図録・特集陳列印刷物	5 冊	―	―		―	―	―	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 3113

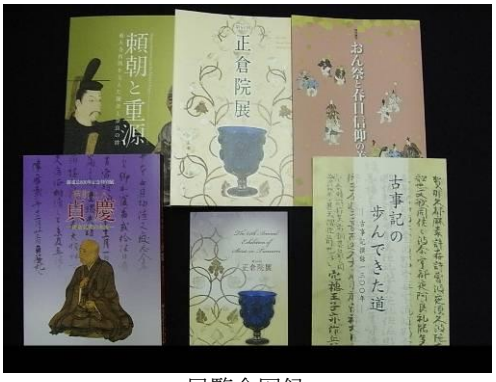
中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
(奈良国立博物館)
1)研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。
2)入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行した。
(奈良国立博物館)
1)研究紀要『鹿園雑集』は、24年度内に刊行し、ウェブサイトにて公開した。
2)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。
○展覧会等図録6冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。

【補足事項】
・展覧会等図録6冊を刊行した。
『解脱上人貞慶 －鎌倉仏教の本流－』(特別展図録)
『古事記の歩んできた道 －古事記撰録1300年－』(特別陳列図録)
『頼朝と重源 －東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆－』(特別展図録)
『第64回正倉院展』(特別展図録)
『The 64th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)
『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)
・展示の理解を促進するための概説書『仏像を観る』と、その英語版『Viewing Buddhist Sculpture』を刊行した。
・読売新聞紙上で「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」を連載するなど、展示作品について定期的な紹介を実施した。



展覧会図録

【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
定期刊行物	1件	－	－		1	1	1	－
特別展図録・特別陳列印刷物	6冊	－	－		7	5	5	5
研究論文等発表実績	31件	－	－		16	22	33	29

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 3114

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
(九州国立博物館)
1)研究紀要「東風西声」を刊行する。
2)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

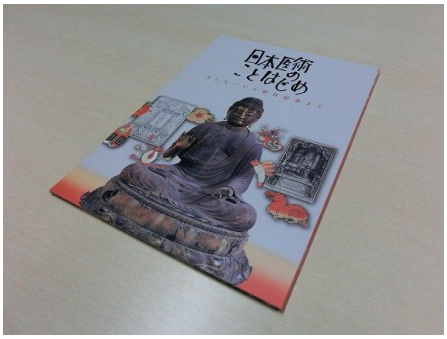
担当部課	学芸部博物館科学課 文化財課	事業責任者	課長　今津節生 課長　臺信祐爾

【実績・成果】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1) 文化財修理に関する印刷物（修理報告書・「市民と共に ミュージアム ＩＰＭ」報告書）を刊行した。
(九州国立博物館)
1) 研究紀要『東風西声』第8号を刊行した。
2) 保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。

【補足事項】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)・『大分県豊後高田市・円福寺所蔵 木造大応国師坐像 修理報告書』を刊行した。
・平成24年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム ＩＰＭ」の報告書、平成24年度ＩＰＭ事業の内容を簡潔に要約した簡易版3冊(研修編、報告会・施設見学調査編、シンポジウム編)を刊行した。

(九州国立博物館)
1)研究紀要『東風西声』では、論文9本を掲載した。(平成25年3月刊行)
2)文化財保存・ＩＰＭ普及のための講演会等を開催した。
・文化財保存交流セミナーを開催した。
・ＩＰＭ普及のための講演会を行った。

(中期計画記載事項)
・収蔵品等に関する調査・研究の成果を展覧会図録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表した。
・特別展図録・特集陳列等印刷物９冊を刊行した。
(特別展図録４冊、トピック展示図録５冊)



トピック展示図録
「日本医術のことはじめ」

【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
定期刊行物	1件	－	－		1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物	9冊	－	－		8	7	11	10

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 3211

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(国立文化財機構)
1)日中韓国立博物館長会議へ参加する。
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(東京国立博物館)
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長　鬼頭智美

【実績・成果】
(国立文化財機構)
1)第7回日中韓国立博物館長会議に出席した。(24年10月18日)
(4館共通)
1)韓国、中国、米国、ドイツより計11名の研究者を招聘し、学術交流及び展覧会事業の円滑化に寄与した。
2)韓国、中国、米国、イギリス、フランス等に延べ34名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会の準備調査を行った。
3)文化庁事業の一環として、ベルリン国立アジア美術館長による講演会、米国ヒューストン美術館教育部長による講演会を行った。
(東京国立博物館)
1)韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。

【補足事項】
(4館共通)
2)上記研究員派遣の人数については、当館予算及び文化庁の事業の受け入れ館として主体的に派遣した人数の延べ人数を示す。
　科学研究費及び他機関等外部の経費負担による派遣人数を含む人数は、派遣：60 人であった。
3)・東洋館リニューアル記念講演会「ドイツ・カナダ所在のアジア美術と展示方法ーベルリンにおける新たな挑戦ー」(25 年 1 月 19 日平成館大講堂) ベルリン国立アジア美術館クラース・ルイテンビーク博士　一般 92 名参加
　・特別レクチャー「海を渡った東博コレクションーヒューストンで魅せる日本美術」(25 年 3 月 26 日東洋館ミュージアムシアター) ヒューストン美術館教育部長マーガレット・ミムズ氏　一般 118 名参加

東洋館リニューアル記念講演会
(ヒューストン美術館教育部長)

(東京国立博物館)
1)研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会を実施した。
　・上海博物館との学術交流発表会 (25 年 3 月 19 日。24 年度上海に派遣した白井克也平常展調整室長・村田研究員による報告会) 館内 15 名参加
　・韓国国立中央博物館との学術交流発表会 (24 年 9 月 11 日) 同館考古歴史部学芸研究員　金 眩希氏　館内 20 名参加
　　同 (24 年 9 月 18 日) 同館アジア部学芸研究員 柳 承珍氏　館内 38 名参加
　　同(24 年 11 月 21 日)24 年度派遣の勝木言一郎主任研究員、品川欣也研究員　館内 25 名参加

上海博物館との学術交流発表会

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
海外からの研究者招聘	11 人	6 人程度	S	経年変化	15	26	15	16
海外への研究者派遣	34 人	6 人程度	S		25	16	54	48
国際シンポジウム開催数	―	―	―		―	1	―	1
国際シンポジウム参加者数	―	―	―		―	170	―	323

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3212

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(京都国立博物館)
1)諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。
2)外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)海外からの研究者を3人招聘した。
2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ 15 人派遣した。
3)国際シンポジウム「天皇・皇帝の書をめぐって」(24 年 11 月 18 日)を開催した。
(京都国立博物館)
1)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ 15 人派遣した。そのうち国際会議、研究集会等へ 2 人を派遣した。
2)外国人客員研究員を 1 人受け入れた。

【補足事項】
24 年度の国際シンポジウムは、24 年 11 月 18 日に「天皇・皇帝の書をめぐって」をテーマに開催し、国内外の研究者 3 名が研究発表を行い、パネル・ディスカッションでは活発な討論が行われた。209 人が参加し、熱心に聞き入っていた。

・国際シンポジウム「天皇・皇帝の書をめぐって」(24 年 11 月 18 日)
　傅紅展 氏（故宮博物院（北京）古書画部主任研究館員）
　何傳馨 氏（故宮博物院（台北）副院長）
　の 2 人を海外から招聘した。

・研究員を作品調査、科研費調査及び国際会議出席などで派遣した。

国際シンポジウム
「天皇・皇帝の書をめぐって」

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
海外からの研究者招聘	3 人	5 人程度	C	経年変化	9	29	7	21
海外への研究者派遣	15 人	6 人程度	S		18	13	27	25
国際シンポジウム開催数	1 回	－	－		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	209 人	－	－		190	288	213	150

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3213

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(奈良国立博物館)
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻忠

【実績・成果】
(4 館共通)
1)中国・韓国の研究者計7名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を実施した。
2)職員延べ17名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。
3)24年12月14日に東アジア仏教彫刻史に関する国際研究集会を開催し、許亨旭氏（韓国国立慶州博物館）が「慶州吐含山石窟庵彫刻」のタイトルで口頭報告し、これに岩井共二教育室長がコメントした。
(奈良国立博物館)
1)中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。

【補足事項】
・将来予定される特別展「遼寧省遼代仏教文物(仮称)」の出陳予定作品の事前調査のため、研究員 3 名を中国遼寧省に派遣した。
・中国上海博物館との学術交流協定に基づき、同館から職員 3 名を 10 日間招聘、当館から職員 5 名を 10 日間派遣した。
・中国河南博物院との学術交流協定に基づき、同館から職員 2 名を 1 ヵ月間招聘、当館から職員 2 名を約 1 ヵ月間派遣した。
・韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づき、同館から研究員 2 名を各 1 ヵ月間招聘、当館から職員 1 名を 1 ヵ月間派遣した。
・12 月 14 日の国際研究集会には、館外の研究者を含む 30 名が参加し、活発な議論が展開された。
・法人内他施設が招聘した諸外国の博物館職員・文化財関係者等の奈良訪問に際し、案内対応等積極的な便宜供与を行った。

許亨旭氏（韓国国立慶州博物館）による研究報告

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
海外からの研究者招聘	7 人	6 人程度	A	経年変化	9	29	9	20
海外への研究者派遣	17 人	6 人程度	S		6	30	14	19
国際シンポジウム開催数	－	－	－		－	1	1	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		－	197	150	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 3214

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。

担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　高田政司 課長　阿部勝 課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を3人招聘した。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため、60人派遣した。
3)・国際シンポジウム「あじわい尽くすベトナム」を開催した。(24 年 11 月 18 日開催)　280 名参加
　・第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウムを開催した。(24 年 11 月 3 日開催)　170 名参加
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、専門的な講演を行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)・タイ文化省芸術局と学術文化交流協定を締結した。(24年8月23日)
　・大韓民国国立公州博物館との学術文化交流協定に基づき、同博物館より兪恵仙氏・崔基殷氏を招聘し、九州国立博物館を始めとする各地の博物館・資料館で文化財調査を実施した。(24 年 11 月 5 日～11 月 18 日)
　・上記交流協定に基づき、九州国立博物館より国立公州博物館へ赤司善彦展示課長・渡部史之アソシエイトフェローを派遣し、百済関連の遺跡・文化財の調査を実施した。(24 年 11 月 26 日～12 月 9 日)
2)平成 24 年度博物館・美術館相互交流事業の一環として、フリーア美術館よりアンドリュー・ヘア氏を招聘し、各国立博物館の保存修復施設での視察、九州国立博物館及び文化庁での講演、第 5 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウムへの参加を実施した。(24 年 10 月 29 日～11 月 6 日)

国際シンポジウム
「あじわい尽くすベトナム」
ポスター

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
海外からの研究者招聘	3 人	3 人程度	A	経年変化	18	37	9	21
海外への研究者派遣	60 人	4 人程度	S		35	46	77	56
国際シンポジウム開催数	2 回	－	－		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	450 人	－	－		385	300	117	263

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 3311

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)
・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(24年8月25日～9月4日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から34名が参加した。

・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」(24年7月30日～8月6日の7日間)を別会場において開催し、受講生は13名であった。

・大学院生のインターンシップを4名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(25年3月4日～3月15日)。

【補足事項】
・文化財保存修復学会第34回大会(24年6月30日・7月1日、東京)において「東京国立博物館の保存修復関連展示―文化財保存の教育普及活動―」を発表した。
・ICOM-CECAアジア太平洋地区研究集会（24年12月1日、佐倉）において「博物館活動に必要な保存修復専門家を育成するための教育プログラムの開発と実践」を発表した。

文化財保存修復専門家養成実践
セミナーの講義

【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	2回	－	－		2	2	2	2
参加者数	47人	－	－		50	60	49	37
インターン受入れ	4人	－	－		3	2	3	4

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3312

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　淺湫　毅

【実績・成果】
(4館共通)
1)毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヵ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。
・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計4回・169人)
　参加者「王朝文化の華　陽明文庫名宝」展　56人
　　「大出雲」展　43人
　　「宸翰　天皇の書」展　34人
　　「国宝　十二天像と密教法会の世界」展　36人
・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。(3人)
・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会を実施し、研修報告を行った。(29人)
・国宝修理装潢師連盟とともに作成に協力した『マンガ文化財入門　絵画・書跡編』が、財団法人京都文化財団より発行された。

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。
・文化財修復に関わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。
・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)に、修理現場の見学・説明などの研修を実施することで、学生の意欲や目標意識の向上を図ることができた。
・『マンガ文化財入門　絵画・書跡編』は、2013 年 2 月発行、初版 5,000 部、Ａ5 判、34 頁。

保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	4 回	－	－		3	4	4	4
参加者数	169 人	－	－		144	155	166	160
インターン受入れ	3 人	－	－		－	3	2	4
大学院生のための研修会参加者数	29 人	－	－		－	－	16	13

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 3313

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4 館共通)
1)国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計9回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
・4月24日：鶴見大学大学院文化財学科による視察・研修（2名）
・6月26日：韓国国立文化財研究所保存科学センターによる視察・研修(3名)
・7月10日：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事業に基づくインドネシア教育文化省技術者の視察・研修(7名)
・8月10日：東京藝術大学大学院文化財学科保存修復研究室による視察・研修（5名）
・8月30日：仏国ルーブル美術館紙資修理技術者による視察・研修（5名）
・10月30日：文化庁学術交流事業による米国フリーア美術館保存科学部東洋絵画修理室員による視察・研修（3名）
・12月20日：文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催(26名)。
・25年1月17日：奈良文化財研究所主催の平成24年度文化財担当専門者研修者受講生による視察・研修（22名）
・25年1月18日：奈良工業高等専門学校生による視察・研修（20名）

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
24 年 12 月 20 日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、装こう室工房代表者による絵画修理に関する報告を踏まえた討議を実施した。参加者は 26 名。
・国際ワークショップ「民族学資料の保存と修復：博物館バックヤードの利用効率向上と自然素材資料の修復」
25 年 1 月 25 日に当館講堂にて、国立民族学博物館・ロシア民族博物館と共同のワークショップを開催。当館文化財保存修理所三工房の修理技術者が発表者として参加し、ロシア人修理技術者との討議を行った。

文化財保存修理所における
外国人修理技術者の研修・視察

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	9 回	－	－		1	1	6	7 回
参加者数	93 人	－	－		－	－	－	97 人

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　3314

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4 館共通)
1)・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計7回・280人)
・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。
・文化財保存、ＩＰＭ普及のための講座・研修を開催した。(計4回・273人)

【補足事項】

○保存修理技術者を対象とした研修会(計 7 回・280 人)
・第 5 回 東アジア紙文化財保存修理シンポジウム（24 年 11 月 3 日）
シンポジウム　1 回　参加者 170 名
・紙文化財の保存講座・研修(協力：国宝修理装潢師連盟)
短期インターンシップ「文化財保存修復研修」(大学生 8 名)
24 年8 月 20 日～24 日
・古文書保存基礎講座(文化財関係者 30 名)　25 年 1 月 23 日、2 月 2 日（2 回）
・ＩＰＭ普及のための研修会
(連携協力：ＮＰＯ法人ミュージアムサポートセンター
文化財保存活用支援センター)
・「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」ミュージアムＩＰＭ支援者育成事業
(文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業)
研修会 3 回　参加者 72 名

第５回 東アジア紙文化財保存修理シンポジウム

○一般向け講演会等（計 4 回・273 人）
・文化財保存交流セミナー　講演会 2 回　参加者 78 名
第 1 回文化財保存交流セミナー（24 年 9 月 2 日）　参加者 26 名
マヌエル・カスティニェイラス氏（バルセロナ自治大学教授・国立カタルーニャ美術館館長補佐）
「ロマネスク壁画の保存」
第 2 回文化財保存交流セミナー（24 年 11 月 1 日）　参加者 52 名
アンドリュー・ヘア氏（フリーア美術館）「東洋絵画の保存と保護　伝統的技法と現代的技術」
・ＩＰＭ普及のための報告会(連携協力：ＮＰＯ法人ミュージアムサポートセンター文化財保存活用支援センター)
平成 24 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）
「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」(24 年 8 月 22 日)
ミュージアムＩＰＭ支援者研修会修了者報告会　1 回　参加者 50 名
・ＩＰＭ普及のための講演会(連携協力：ＮＰＯ法人ミュージアムサポートセンター文化財保存活用支援センター)
「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」(24 年 10 月 7 日)
文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化事業）
シンポジウム 1 回　参加者 145 名

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	7 回	－	－		10	20	22	10
参加者数	280 人	－	－		－	－	－	263

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 3411

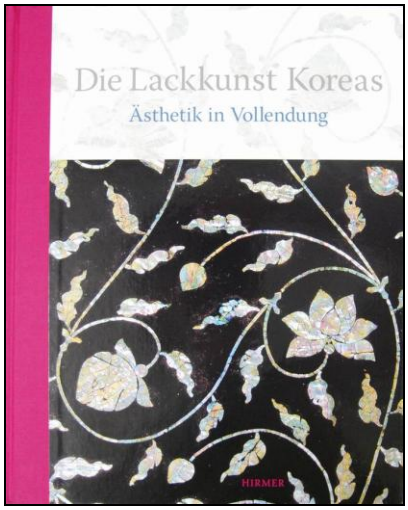
中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等154機関に1,252件の作品を貸与した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)北九州市立自然史・歴史博物館、宮崎県立西都原考古博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の美術館・博物館等5機関に43件の作品を貸与した。

【補足事項】
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)考古資料相互貸借事業経費により、北九州市立自然史・歴史博物館に７件を貸与、31 件を借用、宮崎県立西都原考古博物館に７件を貸与、25 件を借用した。借用品により当館では特集陳列「北九州の青銅器文化」、特集陳列「南九州の古墳文化」を開催した。
(東京国立博物館)
1)
・大韓民国 国立中央博物館で開催された特別展「天下第一　翡色青磁」には当館から３件の文化財を貸与し、館外１箇所からの作品借用・作品展示・作品撤収・輸送随伴に、延べ２名の人員を派遣するなどの協力を行った。
・ミュンスター漆工芸博物館で開催された「高麗・朝鮮時代の韓国螺鈿漆器展」には、当館から３件の文化財を貸与し、作品展示・作品撤収・輸送随伴に延べ２名の人員を派遣し、また国内の他館の作品の展示撤収・輸送随伴に協力するなど、多大な協力を行った。



ミュンスター漆工芸博物館
「高麗・朝鮮時代の韓国螺鈿漆器展」
図録

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
貸与件数	1,295 件	－	－	経年変化	1,125	1,104	1,315	905
うち国内の貸与件数	1,252 件	－	－		1,012	913	1,155	865
うち海外の貸与件数	43 件	－	－		113	191	160	40

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3412

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)71機関に対し304件の収蔵品貸与を行った。(うち海外2機関に対し3件)
　館蔵品の貸与件数：170件
　寄託品の貸与件数：134件
　　計　　304件
○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。

【補足事項】
・平常展示館建設中に公私立博物館・美術館からの貸与依頼に応えて、積極的に収蔵品の貸与を行っている。
・今年度は、ふくやま美術館において「国宝の名刀　京都国立博物館と小松コレクション」展に収蔵品９件を貸与した。
・龍谷ミュージアムの「“絵解き”ってなぁに」展に 13 件、サントリー美術館の「お伽草子―この国は物語にあふれている」展に５件、九州国立博物館の「美のワンダーランド　十五人の京絵師」展に 32 件の収蔵品を貸与した。

龍谷ミュージアム
「“絵解き”ってなぁに」展

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
貸与件数	304 件	－	－		246	428	297	429
うち国内の貸与件数	301 件	－	－		245	400	281	426
うち海外の貸与件数	3 件	－	－		1	28	16	3

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3413

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)館蔵品と寄託品を、国内外合わせて37の機関に、計102件貸し出した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館、壱岐市立一支国博物館、福島県立博物館、福岡市博物館、九州歴史博物館の計5館との間で相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
　貸与申請のあったもののうち、作品の保存状態に問題がないものについては、展示期間や会場の温湿度の設定、また警備体制などを調査したうえで、慎重に、しかし可能な限りその全てに応えるように対処した。結果、100 件を超える貸与件数となり、公私立等の博物館の展示の充実に寄与しえたと考える。
1)○貸出先 37 件の内訳
・国立6件　公立20件　私立10件　海外1件
○貸与作品 102 件の内訳
・国宝　7件(館蔵品1件・寄託品6件)　重要文化財　37件(館蔵品17件・寄託品20件)　その他　58件(館蔵品36件・寄託品22件)
・館蔵品　54件(絵画14件・彫刻1件・書跡3件・工芸5件・考古31件)
・寄託品　48件(絵画23件・彫刻10件・書跡2件・工芸12件・考古1件)
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)相互貸借事業における貸与品件数、借用品件は以下のとおりである。
・長崎歴史文化博物館、壱岐市立一支国博物館（貸与品：2件、借用品：10件）
・福島県立博物館（貸与品：1件、借用品：3件）
・福岡市博物館（貸与品：3件、借用品：7件）
・九州歴史博物館（貸与品：5件、借用品：1件）

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
貸与件数	102 件	－	－		163	108	159	118
うち国内の貸与件数	100 件	－	－		161	107	145	113
うち海外の貸与件数	2 件	－	－		2	1	14	5

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 3414

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	資料登録室主任研究員　丸山猶計

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1) 国内 43 機関・海外 1 機関に所蔵品及び寄託品を貸与した。
（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)○国内の貸与先機関は、下記のとおりである。

・国及び国立博物館
文化庁、奈良国立博物館、京都国立博物館

・地方公共団体及び公立博物館・美術館
栃木県立博物館、三重県立美術館、岡山県立博物館、九州歴史資料館、佐賀県立九州陶磁文化館、長崎歴史文化博物館、大分県立歴史博物館、宮崎県立西都原考古博物館、沖縄県立博物館・美術館、仙台市博物館、千代田区立日比谷図書文化館、大阪市立美術館、和泉市久保惣記念美術館、神戸市立博物館、甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市教育委員会、求菩提資料館、糸島市教育委員会、太宰府市文化ふれあい館

・私立博物館・美術館及び私立団体
サントリー美術館、松阪屋美術館、古都大宰府保存協会大宰府展示館

○海外の貸与先機関は、下記のとおりである。
大韓民国文化財庁国立古宮博物館

重要文化財　油滴天目茶碗（G16・当館所蔵）

長崎歴史文化博物館「中国福建博物院展」（日中国交正常化 40 周年・長崎県－福建省友好県省締結 30 周年記念特別展）出品

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
貸与件数	113 件	－	－		106	89	165	119
うち国内の貸与件数	105 件	－	－		76	88	131	118
うち海外の貸与件数	8 件	－	－		30	1	34	1

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 3511

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部	事業責任者	部長　伊藤　嘉章

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、85件の援助・助言を行った。
・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(17件)
・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(35件)
・講演会やセミナー等における講演等での協力(10件)
・作品の展示・保存環境についての調査・指導(15件)
・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(8 件)
　東日本大震災において被災した博物館など7施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館15館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。

【補足事項】
(4 館共通)
1)
○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力
・文化庁文化審議会専門委員会出席
・東京都文化財保護審議会出席
・千葉県市原市石坂遺跡出土品の調査と保存方法について助言　　他
○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言
・筆の里工房 特別展「よみがえる王朝のみやび」特別協力
・永青文庫 黒糸威二枚胴具足の修理、保存についての助言
・平等院ミュージアム鳳翔館 展示・照明手法についての助言
・オマーン国立博物館 所蔵日本工芸品調査及び展示指導　　他
○講演会やセミナー等における講演等での協力
・公益財団法人サンリツ服部美術館 美術史入門連続講座「中国の青磁」
・新宿区立新宿歴史博物館 特別展「中国　王朝の至宝」関連文化講演会
・国立民族学博物館 平成 24 年度博物館学集中コース講師（国際協力機構委託事業）　　他

文化財救援活動
(岩手県山田町立鯨と海の科学館)

○作品の展示・保存環境についての調査・指導・瑞浪市陶磁資料館、八尾市立歴史民俗資料館、和歌山県立風土記の丘、桐蔭横浜大学　大学情報センター　他
○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)
・レスキュー活動の対象となった施設は、陸前高田市立物館、山田町立鯨と海の科学館、岩手県盛合家住宅、福島県大熊町民俗伝承館、福島県富岡町歴史民俗資料館、福島県双葉町歴史民俗資料館など 7 施設。
(東京国立博物館)
1)環境調査を実施した新規貸与館は、瑞浪市陶磁資料館、中尊寺讃衡蔵、八尾市立歴史民俗資料館、下関市立考古博物館、和歌山県立風土記の丘など 15 館。

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	85 件	－	－		134	139	84	126

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3512

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	部長　村上　隆 課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、65件の援助・助言を行った。
・文化財の展示、修理にかかる指導助言　(12件)
・文化財の調査に関する指導助言　(38件)
・講演会、セミナー等における講演等での協力　(9件)
・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力　(4件)
・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援　(2件)

【補足事項】
1)
○文化財の展示、修理にかかる指導助言
・大谷大学博物館
特別展「親鸞－真宗開顕－」の展示・撤収
・奈良国立博物館
特別展「頼朝と重源－東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆－」に係る展示立ち合い
・25 年度香川ミュージアムで開催予定の「京都国立博物館名品展」のため香川の学芸員に事前調査の協力を行った。他
○文化財の調査にかかる指導助言
・大津市教育委員会
大津祭曳山金工品調査
・野﨑家塩業歴史館
野﨑家塩業歴史館所蔵資料の調査指導　　他
○講演会、セミナー等における講演等での協力
・浄土宗西山禅林寺派　浄土宗西山禅林寺派　教師補講習会講師
・滋賀県博物館協議会　滋賀県博物館協議会研修会に係る講演　　他
○地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力
・奈良県教育委員会　国宝薬師寺東塔保存修理事業修理専門委員会
・愛知県　愛知県史編さん委員会文化財部会　　他

○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	65 件	－	－		114	114	123	91

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 3513

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(奈良国立博物館)
1)神奈川県立金沢文庫と共催で御遠忌800年記念特別展「解脱上人貞慶　－鎌倉仏教の本流－」(奈良会場：4月7日～5月27日、神奈川会場：6月9日～7月29日）を開催する。
2)聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社主催、会場：日本橋高島屋ほか）に学術協力を行う。
3)「法隆寺展（仮称)」(主催：法隆寺・読売新聞社＝予定、会場：香川県立ミュージアム・広島県立歴史博物館他＝予定)に向けた調査研究を行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
(4 館共通)
1)国内外の博物館・美術館等の運営や展示活動への協力は、総計 67 件を実施した。
（奈良国立博物館)
1)神奈川県立金沢文庫と共同主催の特別展は、当初計画どおり奈良会場で 24 年 4 月 7 日～5 月 27 日に、神奈川会場で 24 年 6 月 8 日～7 月 29 日に実施した。
2)聖徳太子 1390 年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社、会場：日本橋高島屋及びなんば高島屋)への学術協力では、大阪会場（24 年 3 月 29 日～4 月 16 日)の終了後、会場からの展示品搬出、法隆寺への返却作業を指導した。
3)「法隆寺展（仮)」は平成 26 年度の開催が決定し、出陳候補品の選定作業を開始した。
○石川県立美術館で開催される特別展「国宝薬師寺展」(主催：同展実行委員会、会期：平成25年4月26日～6月23日）への学術協力として、同展への助言と図録原稿の執筆を担当した。

【補足事項】
1)特別展「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流」(奈良会場：24年4月7日～5月27日、神奈川会場：24年6月8日～7月29日)においては、一部の展示品の借用や返却を金沢文庫職員と合同で実施し、また出張講演を実施した。
○福島県立博物館のポイント展「奈良国立博物館所蔵「二本松木幡山経塚群出土の遺物」(24 年 12 月 19 日～25 年 3 月 3 日)に貸与した館蔵品の輸送に際して助言した(平成 24 年度考古資料相互活用促進事業による)。
○長崎歴史文化博物館の常設展に貸与した館蔵品（展示期間は 24 年 10 月 17 日～31 日）の輸送に際し、随行と助言を実施した(平成 24 年度考古資料相互活用促進事業による)。
○壱岐市立一支国博物館での展示のために貸与した館蔵品（展示期間は 24 年 11 月 2 日～18 日及び 12 月 14 日～25 年 3 月 10 日）の輸送に際し、随行するとともに展示方法について助言した(平成 24 年度考古資料相互活用促進事業による)。
○岐阜県博物館で開催された特別展「飛騨・美濃の信仰と造形」(24年9月21日～10月28日）に貸与した寄託品の陳列、展示替え、撤収作業に立ち会った。
○ミュンスター漆芸美術館（ドイツ）で開催された「Korean Lacquer Art」展（24年10月28日～25年1月27日）に貸与した寄託品の展示替えにあたり、現地に赴いて作業を指導した。

当館から貸与した文化財の展示を伝える福島県立博物館のウェブサイト

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	67 件	－	－		5	25	35	98

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 3514

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(九州国立博物館)
1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのＩＰＭ(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。

担当部課	総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　阿部勝 課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(109件)
・文化財の調査に係る助言(24 件)
・文化財の保存修理にかかる援助、助言(33 件)
・作品の展示及び運営等についての指導、助言(40 件)
・講演会、セミナー等における講演(9 件)
・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) (3 件)
(九州国立博物館)
1)福岡県教育委員会と筑紫野市歴史博物館との共催により文化財関係者に向けて「古文書保存基礎講座」を実施した。
2)地域の自治体と実行委員会を組織し、文化庁補助金を得て、「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」事業を実施し、文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアムＩＰＭ支援者研修」を実施した。

【補足事項】
(4館共通)
1)○文化財の調査に係る助言
・長崎県松浦市教育委員会：鷹島海底遺跡出土品の調査に係る助言
・那覇市市民文化部博物館（歴史博物館）：国宝「琉球国王尚家関係資料」のうち「王冠」の調査に係る助言
○文化財の保存修理にかかる援助、助言
・文化庁文化財部美術学芸課：古墳壁画の保存活用に関する検討会出席
○作品の展示及び運営等についての指導、助言
・財団法人アイヌ文化振興・研究推進機：アイヌ工芸品展示作品選定についての指導、助言
○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)
・24 年 4 月から、東日本大震災で被災した宮城県内の博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員延べ 3 人を派遣した。
作業従事の延べ日数は 13 日
(九州国立博物館)
1)「古文書保存基礎講座」(第 7 回)
主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
協力：国宝修理装潢師連盟
本研修は、協力団体共催の「寒糊炊」にあわせて毎年開催している。
2)「ミュージアムＩＰＭ支援者研修」
主催:「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」実行委員会
ミュージアムＩＰＭ支援者研修（基礎編）・(技術編)・(実践編）各1回を実施
参加総数　72名

「古文書保存基礎講座」
(「寒糊炊」風景)

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	109 件	－	－		47	39	77	97

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調